

多文化社会学部に対する企業アンケートの結果

多文化社会学部生の主要な就職先企業21社の結果から

長崎大学 白井 章詞

1. はじめに

本稿では、多文化社会学部の教育・研究活動の質的向上を目的として、本学部生（以下、学生）の代表的な就職先企業を対象に行った「企業アンケート」の結果を報告する。多文化社会学部は2014年に開設され、既に3期生を社会に輩出した。その数は決して多く無いが、白井（2018）でも紹介しているように、日本や業界を代表する企業・団体からも手厚い支援を受けながら、グローバルに活躍したいというマインドを持った学生の育成に努めてきた。その結果、卒業生の多くは海外展開しているメーカーや商社、エアライン、マスコミ、IT業界を中心に、幅広く就職している。特に、文系学部でありながらもメーカーへの就職割合が高いのは、学内セミナーにおいて、こうした企業との接点が多いからであろう。

社会に有用な人材を輩出していくためには、本学部における教育・研究活動や学生に対する意見を広く聞き、その内容を学生指導に活かしていくことが肝要である。そこで、多文化社会学部就職委員会では、本学部のキャリア教育プログラムや就職支援等において学生との接点が多く、採用実績のある企業・団体を中心に「企業アンケート」を実施した。回答結果をもとにした本学部での学習成果を検討し、今後の教育改革を考える基礎資料として活用することを目的としたい。

2. 調査手法

（1）調査対象と調査方法

本学部におけるキャリア教育・就職支援等において学生との接点があり、採用（内定出し）実績のある企業および団体21社に対して、Webによる企業アンケートを実施した。

配布先の業界としては、メーカー7社、商社4社、物流2社、マスコミ2社、情報通信

3社、運輸に付随するサービス業1社、エアライン1社、独立行政法人1社。なお、回答率は100%となっている。

(2) 調査時期

2020年8月末日に調査用紙をメールで配信し、回答締め切りは9月4日とした。

(3) 調査内容

添付資料1参照

3. 結果

回答企業の属性を表1から表3に示す。回答企業の約半数は首都圏に本社を置く大企業となっている。これは、グローバル企業への就職を希望する学生が多い本学部の特徴といえるだろう。

企業担当者の「多文化社会学部に対するイメージ」について、「非常にそう思う～全くそう思わない」までの5件法で尋ねた結果を表4に示す。以下、「非常にそう思う」および「ややそう思う」と回答した割合に着目して見ていく。こうした回答が高かった項目は、「留学制度が充実している」(86%)と「海外インターンや海外フィールドワークが充実

表1. 本社がある都道府県

	東京都	大阪府	長崎県	福岡県	宮崎県	
本社所在地	12	4	2	2	1	21
	57%	19%	10%	10%	5%	100%

表2. 総従業員数

	3000人以上	1000~2999人	300~999人	100~299人	30~99人	
従業員規模	5	6	7	2	1	21
	24%	29%	33%	10%	5%	100%

表3. 主たる業種(業界名)

	メーカー	商社	情報通信	マスコミ(新聞)	物流	独立行政法人	運輸に付随するサービス業	航空運輸業	
業種	7	4	3	2	2	1	1	1	21
	33%	19%	14%	10%	10%	5%	5%	5%	100%

している」(86%)、「キャリア教育・就職支援が充実している」(81%)、「語学教育が充実している」(76%)、「学部の専門教育が充実している」(76%)であった。

表4. 多文化社会学部に対するイメージ

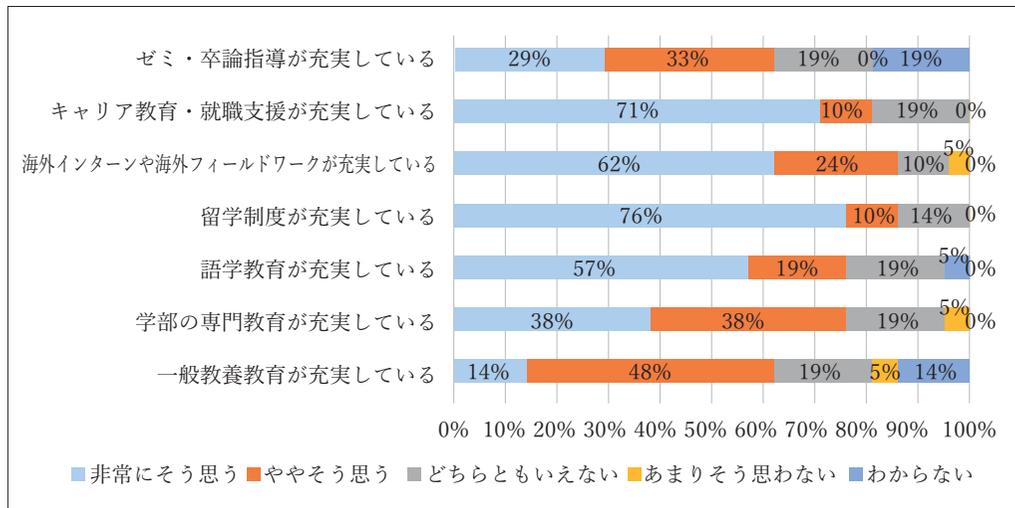


表5は、本学部のディプロマポリシーを参考に、学生が知識や能力をどの程度身につけているのかを尋ねたものである。

その結果、「とても身につけている」および「やや身につけている」と回答した割合が高いのは、「専門知識」(81%)と「基礎学力」(81%)、「高度な英語力」(72%)、「英語でのプレゼンテーションスキル」(62%)、「考える力」(62%)となっていた。他方、「わからない」との回答割合は、設問によってバラつきもあるものの3割程度みられた。これについては、学生個々の状況についてはわからないということなのか、自社の内定者や採用した学生については理解しているものの、学部生全体のことについてはわからないということなのかは判断できない。この点については、今後の検討課題としたい。

表6は、本学部の教育内容について、より注力して欲しいと企業が期待している項目を示したものである。最も高かったのは「キャリア教育・就職支援」(48%)であり、次いで「一般教養教育」(43%)、「学部の専門教育」(39%)、「海外や国内でのフィールドワーク」(38%)となっていた。

実社会での経験をもとに、本学部において、より力を入れた方が良いことについて、自由記述による回答を求めた(表7参照)。その結果、多かったものは「プレゼンテーション能力」であり、次いで「コミュニケーション能力」となっていた。本学部の学びと関連

表5. 多文化社会学部生が身につけている知識や能力

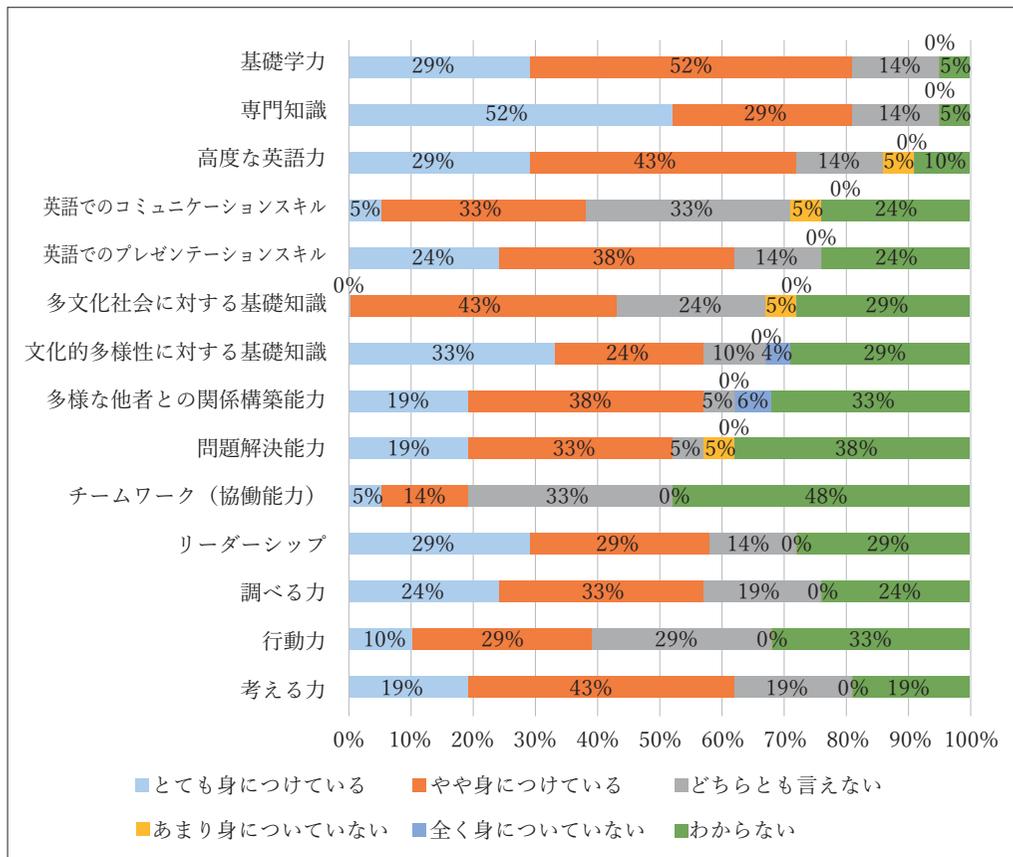
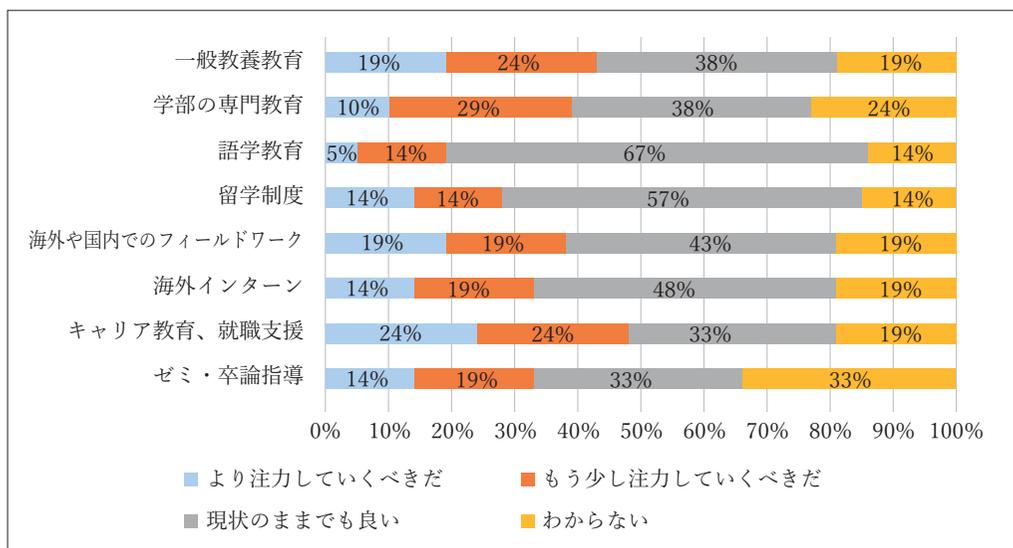


表6. 企業が注力して欲しいと期待する教育内容



のある「文化」や「多様性」に関する学びを期待する声も見られた。他方、企業や仕事等への理解を促す実学的内容を求める声も見られた。

表7. 実社会での経験をもとに、本学部において、より力を入れた方が良いと思うこと
(自由記述)

	該当数	該当
プレゼンテーション能力。	4	情報通信(3)、物流
コミュニケーション能力。	3	情報通信(3)
語学力。	2	物流
海外だけではなく日本の事はもちろん、文化風習を踏まえて物事を全体的に捉える力を養えると更にいいと感じます。	1	商社
海外での実習や留学の場などの貴重な経験の場を提供されており、言語、国籍、人種、宗教、価値観等に対してハードルを持たれていない学生が多いように感じています。	1	航空
県内企業の認知向上につながる就職支援をしていただきたい。	1	運輸に付随するサービス業
文化的多様性への理解への取組みは引続き期待しております。	1	商社
採用担当者としては、実際の企業での仕事・業務への理解、やりがいを知っていただく機会があればよりよいと考えます。	1	メーカー
特にありません。	1	マスコミ
(空白)	10	
総計	21	

その他、多文化社会学部生が身につけるべき能力について、自由記述による回答を求めた結果を以下に示す(表8参照)。

表 8. 多文化社会学部生が身につけるべき能力（自由記述）

	該当数	該当
グローバル化が進むため、英語でのコミュニケーション能力は必要かと思 います。また、英語だけではなく日本語でのコミュニケーション能力も蔑 ろにはできないと思います。 今後社会の中でリーダーシップを発揮していくためには、知識・手段の習 得、理解力やコミュニケーション能力の向上だけではなく、自己の信念や 使命感もその過程のなかでしっかりと醸成していくことが大切だと感 じます。	1	メーカー
7、の回答と反する意見になりますが、貴学生のみならず昨今の新卒生は 豊富な経験や広い視野を備えられており、併せて自分の成果を得ようとす る力や発想力が豊かな学生が溢れてきたように感じています。他方、ルー ルに縛られたり、地道な積み重ね、他人への礼儀や義理などが苦手な人材 も増えてきているように感じています。まだまだ、国内の企業の考え方が 古い、といった状況であることは否めませんが、有望な人材を生かしきれ ていない状況があります。古臭いかもしれませんが、日本特有の堅苦しい ながらも組織や他人を重んじる力や人情についても、ぜひぜひ兼ね備えて ほしいと感じています。まだまだグローバル化や柔軟な企業運営に転換し きれていない国内の企業において、不可欠な力のように感じています。	1	航空
コミュニケーション力、語学力は高いレベルであると実感しております。 粘り強く諦めずに行動する力が必要と考えます。	1	メーカー
コミュニケーション力など社会人に必要な基礎能力	1	運輸に付随する サービス業
海外での経験などで培った心身のたくましさを備えた学生をこれからも社 会に輩出してください。	1	マスコミ
現状、入社後に「不足する」と感じる能力は特に無く、特にございません。	1	メーカー
質問 7 に同じ	1	商社
特にありません	1	マスコミ
特段不足点はありません。社会人として自他理解や自身で考え行動する 力が求められますので、学生時代のうちに身につけていただくと更に役立 つと思います。	1	物流
(空白)	12	
総計	21	

最後に、本学部への提案や意見を求めた結果を以下に示す（表 9 参照）。

表 9. 本学部への提案・意見（自由記述）

	該当数	該当
いつも大変お世話になっております。貴学の卒業生は、人間的魅力にあふ れるかたが多く、弊社においても活躍いただいております。今後とも何卒 よろしく願いたします。	1	メーカー
異文化理解やグローバル対応力という点で、当社の事業内容と卒業生の特 性がマッチしていると感じており、継続して貴学から採用させていただき たいと考えております。引き続き情報交換等をさせていただければと思 います。	1	メーカー

今後も定期的な訪問やセミナー参加などで、御校との関係性を高めていきたい。	1	運輸に付随するサービス業
昨今、内向き傾向にある中でアグレッシブに外に向いていく力は本当に素晴らしいと感じております。引き続き外を見ながら全体を捉えられるような力を養っていただけると更に社会で活躍する人材を輩出されると推察いたします。ぜひ弊社と何かコラボレーションできましたら嬉しい限りです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。	1	商社
色々なキャラクターの卒業生が自分の特徴を活かしながら頑張ってくれています。今後も優秀人材の輩出に期待しております。	1	商社
特にありません。	1	マスコミ
特にございません。	1	商社
(空白)	14	
総計	21	

4. まとめにかえて

本稿は、多文化社会学部の教育・研究活動の質的向上を目的として、本学部生の代表的な就職先である21社を対象に「企業アンケート」を実施した結果をまとめたものである。

その結果、企業からみて本学部の卒業生が「身につけている」と回答した割合が高かったのは、「専門知識」(81%)、「基礎学力」(81%)、「高度な英語力」(72%)、「英語でのプレゼンテーションスキル」(62%)、「考える力」(62%)となっていた。他方、「わからない」との回答割合も全体的に3割程度みられた。今後、力をいれていくべき項目については、「キャリア教育・就職支援」(48%)が最も多く、次いで「一般教養教育」(43%)、「学部の専門教育」(39%)、「海外や国内でのフィールドワーク」(38%)となっていた。同様に、自由記述欄には、「プレゼンテーション能力」や「コミュニケーション能力」、「文化」や「多様性」に関する学びへの注力を期待する声が見られた。

本稿が調査対象とした企業は、海外での事業展開や取引があり、外国人との協働や交渉が日常的に行われている。企業の回答や要望からは、こうした多様な他者との関係を構築していくうえで、高度な語学力に加え、他者の文化的背景や主張を理解すること、また、それを踏まえて自らの主張を相手に伝え、信頼関係を構築していく力が求められていると考えられる。また、「キャリア教育・就職支援」への注力を期待する背景には、3つの理由があると考えられる。第1に、学生の勤労観や職業観の醸成への期待である。大学での学びを実社会へとつなげていくうえでも重要と言えるだろう。第2は、回答者が人事担当者であったことから、優秀な人材を採用につなげていくうえでも、こうした教育や機会の

拡充を期待しているものと思われる。第3は、2020年1月以降、世界的に感染拡大したコロナウイルスの影響もあるものと思われる。社会・経済環境が急速に悪化するなか、若者を社会へと送り出していくうえで、その変化への対応が求められていると考える。

これまで、日本の大学はレジャーランドと揶揄され、遊びやアルバイトに明け暮れる学生像が語られてきた。あるいは、就職活動の早期化により就職予備校とも言われてきた。企業の採用活動においても、大学での学びよりもアルバイトや部活・サークル活動での経験が重要視されるとの声は多かった。確かに、そうした活動を通して身につけられる能力は多いと思われるし、貴重な人生経験にもつながっていると考えられる。他方、本アンケートの結果に注目したいのは、企業が大学での学びを通じた知識や能力の育成に期待している点にある。加えて、そうした学びの機会に、企業としても貢献したいと考えていることである。多文化社会学部での学びは、もともとフィールドワークやスタディツアーなど、多様な教育実践が行なわれており、近年では海外インターンも活発に展開されてきた。こうした社会のなかにある教育資源の積極的活用に加えて、企業が持つ教育力あるいはフィールドを教育に取り入れて、学びの一層の多様化をはかることが社会にとって有用な人材の育成にもつながるものと考ええる。

本稿は、非常に限られた調査対象にもとづく結果からの検討であり、調査者は本学部の就職委員会となっていた。回答を依頼された企業としても、今後の関係性を考慮すればネガティブなコメントはしにくいことが考えられる。今後も、企業等との対話を重ね本学部に対する意見や要望を吸収しながら学部教育の質的向上に貢献していきたい。

末筆ではあるが、お忙しい中、本アンケート調査にご協力いただいた各企業の担当者に記して感謝の意を表したい。

引用文献

白井章詞 (2018)「多文化社会学部における就職支援プログラムの実施状況と課題：就職決定学生のアンケート結果から (特集グローバル人材・キャリア教育の現状と課題)」『多文化社会研究』第4巻, PP. 413-428.

添付資料1 調査項目

設問	回答
1. 貴社の本社がある都道府県名を教えてください。	短文記述
2. 貴社の総従業員数について、あてはまる箇所を1つ選んでください。	1. 3000人以上 2. 1000-2999人 3. 300-999人 4. 100-299人 5. 30-99人 6. 29人以下
3. 貴社の主たる業種（業界名）	短文記述
4. 多文化社会学部に対するイメージを教えてください。	6. 非常にそう思う 5. ややそう思う 4. どちらともいえない 3. あまりそう 思わない 2. 全くそう思わない 1. わ からない
①一般教養教育が充実している	
②学部の特門教育が充実している	
③語学教育が充実している	
④留学制度が充実している	
⑤外インターンや海外フィールドワークが充実している	
⑥キャリア教育、就職支援が充実している	
⑦ゼミ・卒論指導がしっかりしている	
5. 以下の項目について、今後、どの程度注力していくべきだとお 考えでしょうか。	4. より注力していくべきだ 3. もう少 し注力していくべきだ 2. 現状のまま も良い 1. わからない
①一般教養教育	
②学部の専門教育	
③語学教育	
④留学制度	
⑤海外や国内でのフィールドワーク	
⑥海外インターンシップ	
⑦キャリア教育、就職支援	
⑧ゼミ・卒論指導	
6. 多文化社会学部の学生は、以下の能力や態度をどの程度身につ けていると思いますか。	6. とても身につけている 5. やや身につ けている 4. どちらともいえない 3. あまり身につけていない 2. 全く身につ けていない 1. わからない
①基礎学力	
②専門知識	
③高度な英語力	
④英語でのコミュニケーション能力	
⑤英語でのプレゼンテーション能力	
⑥多文化社会に対する基礎知識	
⑦文化的多様性に対する理解	
⑧多様な他者との関係構築能力	
⑨問題解決能力	
⑩チームワーク（協働能力）	
⑪リーダーシップ	
⑫調べる力	
⑬行動力	
⑭考える力	
7. 実社会での経験をもとに、本学部において、より力を入れた方 が良いと思うことがあれば教えてください。	自由記述
8. 多文化社会学部生が身につけるべき能力について、ご意見があ りましたら以下にご記入ください。	自由記述
9. 本学部へのご提案・ご意見がありましたら、ご自由にお書きく ださい。	自由記述
10. アンケート結果について、お問い合わせすることが可能な場合 には、お手数ですが、貴社とご担当者様のお名前をお教えてください。 （外部に貴社名が表示されることはありません）	自由記述